

# 生徒に身につけさせたい資質・能力を起点とした「これから」の授業の実現を目指して

本誌の連載「実践 アクティブ・ラーニング」に登場した5人の教師を再び取材。彼らが考える「主体的・対話的で深い学び」とその実現に向けた実践、そして、コロナ禍における気付きを踏まえた自身の課題について聞いた。

「主体的・対話的で深い学び」は、新学習指導要領では下記のように説明されているが、自身の授業を振り返った時、それぞれの学びに対応する活動として、どのような実践をしているだろうか。中央教育審議会の答申(\*)では、「主体的・対話的で深い学び」の実現は、「形式的に対話型を取り入れた授業や特定の指導の型を目指した技術の改善にとどまるものではなく」、「特定の指導方法のことも、学校教育における教員の意図性を否定することでもない」と示されており、教師によって方法も内容も様々だ。そこで、5人の教師の実践から、その多様性を感じつつ、「主体的・対話的で深い学び」の本質について一考していただきたい(図)。

## 新学習指導要領における「主体的・対話的で深い学び」の説明

### 資質・能力を育む 主体的な学び

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連づけながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているかという視点。

### 資質・能力を育む 対話的な学び

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手がかかりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているかという視点。

### 資質・能力を育む 深い学び

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連づけてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているかという視点。

【深い学び】に関する補足 「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指して授業改善を進めるにあたり、特に「深い学び」の視点に関して、各教科等の学びの深まりの鍵となるのが「見方・考え方」である。各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方である「見方・考え方」は、新しい知識及び技能を既に持っている知識及び技能と結びつけながら社会の中で生きて働くものとして習得したり、思考力、判断力、表現力等を豊かなものとし、社会や世界にどのようにかかわるかの視座を形成したりするために重要なものであり、習得・活用・探究という学びの過程の中で働かせることを通じて、より質の高い深い学びにつなげることが重要である。

\* 文部科学省「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 総則編」(2018年7月)を基に編集部で作成。

## 図 「理想の授業」を目指すアプローチに対応する、5人の教師が示す実践の視点

### 「理想の授業」を目指すアプローチ

資質・能力を育成するために  
目指す「理想の授業」を描く

理想と現状のギャップ  
(解決すべき問題)を捉える

現在の自分の授業を振り返る

### 5人の教師が示す実践の視点

私が考える

「主体的・対話的で深い学び」

私の「これから」の授業、越えるべき壁

コロナ禍における気付き

私が実践してきた「これまで」の授業

\* 中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」(2016年12月)。